

1 取組名称

教育の質保証のための学生評価支援システムの構築

2 取組組織等

システムデザイン学部／システムデザイン研究科

3 取組実施代表者名

システムデザイン学部・准教授 武居 直行

4 取組年度期間

平成26年度

5 取組の概要

システムデザイン研究科では大学院学則に「複数教員による公開期末評価を行い学位の品質を保証する」と明記しており、これを支援するシステムを開発することで更なる高度化を図る。併せて、メソッドとしての確立を進めて他専攻にも供することができるような一般化を進める。

きめ細かな教育・指導が必要との判断から公開期末評価（博士前期／後期）を進めており、その成果は徐々に表れつつある。しかし、現状では紙ベースの評価シートに記入して学生に手渡して指導を行っており、学生の能力を評価軸毎に分析できていないだけでなく、その推移（伸び）を教員・学生の双方が確認できない状態にある。

そこで、教員評価シートをデジタル化するとともに学生の教育研究の成果物データとの関連付け、評価軸（コミュニケーション力、論理的思考力、独創性など）毎の伸びを「見える化」するような支援システムの開発を第一の目的とする。さらに、支援システムを他研究科で用いることができるような一般化を進めることを第二の目的とする。

6 事後評価での総合評定

2. 1 ※審査会(教育担当副学長及び部局長構成)の審査員が行った4段階評価(4～1、4が最高点)の平均点

7 事後評価に関する教育改革推進事業提案審査会での主な意見

- ・情報通信システム学域で構築していた評価入力システムを、研究科の全学域に拡大して組織的に評価システムを運用できるようにした点、指導教員一人に学生指導を任せきりにしない体制（副指導教員制度）を確立した点は評価できる。
- ・このシステムの構築により、教員の評価を学生も見ることが可能となり、双方向性での見える化ができたことは評価できる。また、外部委託ではなく内製でのシステム構築ができたことも評価できる。
- ・本システムによって、コミュニケーション力、論理的思考力、独創性などの評価軸ごとの伸びを見える化できるのか、疑問が残る。